



パッテロー通信



《学校の教育目標》 心豊かでたくましい実践力をもつ子

平成30年8月29日

笑顔とコミュニケーション力

校長 加藤 辰司

「災害級の高温」「経験則が役に立たない台風」という初めて聞く言葉が連日ニュースを賑わした夏休みの始まりでした。連日高温注意情報が早朝から発表され、「今年こそは・・・」と思っていたプール開放も、終わってみれば結局2日間しかできませんでした。心なしか、環境整備作業であった子どもたちの顔も、例年よりも少し白いような気がしました。

そんな中、少し暑さが収まった8月19日(日)の早朝から、PTA環境整備作業にたくさんの保護者そして5、6年生の子どもたち、また、お手伝いに来てくれた1~4年生の子どもたちが参加してもらえました。また、今年はライオンズクラブの方々にも早朝から草取り作業のお手伝いをしていただきました。始まる前と終わった後の運動場や校舎内のあまりの美しさの違いに、改めて一人一人が力を合わせることのすごさを感じることができました。そして、保護者、地域の方々の「子どもたちに2学期を気持ちよくスタートしてほしい。」という温かい思いを痛感することができました。本当にありがとうございました。

その週の8月23日(木)の午前中に「未来トーク 人道の町やおつ 児童・生徒会サミット30」が実施され、和知小学校からは、6年生の清水稟斗さんと渡邊心花さんの二人が代表として参加しました。八百津町内の各小中高等学校の代表と町内の人たちが大勢集まる中、二人とも堂々と和知小学校の取り組みを発表してくれました。その後のワークショップでの発言も含め、とてもすばらしい姿で、見ていた私たちも、誇らしくうれしく思いました。

ワークショップの様子



ワークショップでは、ライン株式会社オフィシャルインストラクターの福泉敏子先生を講師に迎え、「楽しいコミュニケーションを考えよう」というテーマで、各グループに分かれ活発に話し合いました。その中で、「**文字だけの言葉では、相手の受け取り方によって違う感情を持つ可能性があること**」、「**楽しいコミュニケーションをするためには、想像力を働かせることが大切であること**」などを学ぶことができました。

ちょうどその日の午後、加茂郡と美濃加茂市の全職員が、研修の一環として落語家の林家染太師匠の「笑う門には福来る」という演題の講演会に参加しました。染太師匠は中学時代、死を考えるほどのいじめを経験され、それを乗り越えて、現在は海外で英語やフランス語の落語をするなどの活躍をされている方です。染太師匠は、自らの体験から、「**どんなことがあっても生きることが大切であること**」、そして、「**他人との良好なコミュニケーションをとるためにも、常に笑顔で過ごすことが大切であること**」を涙と笑いを交えながら訴えられました。

この2つの研修では、奇しくも良好なコミュニケーションをとるためにどうしたらよいかを学ぶことができました。そして、その力をつけるためには、和知小学校を「パッテロースピリッツ」あふれる学校にしていくことが間違っていないことを確信できました。

2学期以降、和知小学校では、子どもたちに特に授業の中で「**他者意識**」を持たせる指導に力を入れていきたいと考えています。